

**1 日 時**

平成30年10月4日（木） 午前10時30分から午前11時20分まで

**2 場 所**

市川市役所仮本庁舎4階 第4委員会室

**3 出席者**

村越祐民市長、田中庸恵教育長、平田信江教育委員、島田由紀子教育委員、関係職員  
(12名)

**4 議 事**

(1) 市川市教育振興大綱の策定について

**5 議事概要**

○市長

それでは、第2回総合教育会議をはじめさせていただきたいと思います。前回、7月30日に、意見交換をさせていただきました。今日はそれを踏まえた案をお配りしており、教育振興大綱の策定についてということで、ご相談させていただきたいと思います。この案をたたき台として、次回に向けて、さらにご意見をいただいて、良いものにしていきたいと思っております。

それでは、会議に先立ちまして、会議運営要綱6の(4)に基づき、本日の会議の公開・非公開の決定を行いたいと思います。

議題については、非公開事由に該当する議題ではないと思われるので、会議を公開することといたしますが、よろしいでしょうか。

————— 異議なし —————

ありがとうございます。

傍聴希望の方、いらっしゃったら、入室してもらってください。

————— 傍聴者 1人 —————

## ○市長

それでは、教育振興大綱の策定についての協議に入りたいと思います。

まず、策定にあたっての考え方を私から説明させていただきたいと思います。目標として、「自分らしく、輝く力を持った人間味あふれる人の育成」としています。どんな方でも活躍していただけるように、ご自身の可能性を広げるとともに、個性的な感性を持ち、創造性を発揮できる人を育みたいということで、前回、AIやICTを教育の中に取り入れる中で、やはり基本は人間性を育むという議論をいただいたと思いますが、そこを踏まえて、こういった表記をさせていただいております。

基本方針ですが、目標を実現するために、3つの基本方針を掲げています。第一に、「教育の未来環境を整備し、質の高い教育をつくります」ということで、ICT環境を整備して、それを活用して個々の子どもたちの学習環境を整えることや、子どもたちの安心安全、保護者の方が安心して学校に通わせられる環境づくりという取組をしてきたいと考えています。第二に「豊かな学びで個性を伸ばします」ということで、これは、どんな子どもたちであっても無限の可能性があるので、子どもたちが伸び伸びと成長できるように、特別支援教育の視点を大切に、それぞれのニーズに応じた教育機会を提供するという、そして、まさに生涯学習の時代ですから、様々な学び方ができるようにするということです。三つ目として、「地域コミュニティの中で豊かな人間性を育みます」ということで、多様性を認め合ったり感性を磨くために、地域で学び地域で育つ教育の実現に取り組むということを掲げさせていただいております。

このことに関して、委員の皆さまのご意見をいただければ、幸いに存じます。よろしくお願いたします。

では、平田委員からお願いしてもよろしいでしょうか。

## ○平田信江委員

前回、いろいろお話をさせていただいてありがとうございました。今回、内容を見させていただいて、とても共感する部分があります。特に、基本方針1の部分で、ICTの活用については、やはり子どもたちにはなくてはならない世の中になってくると思うので、その辺りの環境整備というものは、しっかりとしていきたいと考えます。また、それと相反する部分かもしれませんが、基本方針3で、機械では対応しきれない細部のケアなどの部分に関しては、しっかりと人と人とでつながっていかねばいけないのではないかと、ここのバランスをいかに保っていくのかが理想的なのだと考えます。

ICTの活用に関しては、おそらく環境を整えていただければ、子どもたちはどんどん使っていくと思うのです。一方で、例えば不登校、どうしても学校に行けない、人の集まるところが怖いという、そういった子どもたちへの対応も、ICTの活用によって、何か解決の糸口が見つかるのではないかと期待もしています。

## ○市長

ICTというものはいつでも学ぶ機会があって、このまえも申し上げたかもしれませんが、アメリカで私が視察してきた学校は、シリコンバレーにある学校で、名だたる会社の子弟が通っているけれど、コンピュータに触らせないのです。その学校の方々が言うには、ICTというのは歯磨き粉の使い方と同じくらい簡単なのだから、それよりも、初等教育の中で、人とどうやってコミュニケーションをとるかとか、そういうことを勉強しなくてはいけないのであって、べつにICTというものはいつでもよいのだということなのです。非常にユニークで面白かったのですけれど、ある意味、そういうことなのではないかと思います。

ただ、我々が公教育のあり方というものを考えるときに、ICTの力というものは無視できないし、利活用できるところがあると思うのです。例えば、先々週でしたか、いいか悪いかは別にして、ゾゾタウンの社長が月に行くということを発表しました。私も考えるところがありましたが、ゾゾタウンというところはゾゾスーツというものを作っています。ネットで申し込むと、タイツのようなものが送られてきて、それを着てスマートフォンで撮ると、体のサイズが全部スマートフォンで計測できるのです。そこまでは無料です。どのような商売をしようとしているかという、2万円とか3万円かいくらか知りませんが、オーダースーツを作ることができるというものなのです。これまで何十万か払わないと作れなかったものが、2万円とか3万円でできるようになる。だからICTの力で、月謝が50万、100万するような学校の教育内容を、非常に廉価に公教育の中で実現できる可能性があるということだと思うのです。そういう面で、ICTというのは、教育の機会の平等ということができ得ると思いますので、そういうところは、公教育の中で活かしていくべきところではないかと思っています。学校の先生方には、働き方改革という意味で良い面もあるのでしょうかけれど、最初は慣れる時間が必要でしょうし、抵抗もおありかと思いますが、その趣旨を理解していただいて、質の高い教育のためにICTを使うのだということにすればいいのではないかと考えております。ありがとうございます。

では、島田委員、お願いします。

## ○島田委員

今のICTのお話で、いい面はそうですけれど、その一方で、ICTの活用によって、体験せずに、経験せずに、答えを最短距離で得ることができる。しかも、おそらく子どもたちは、初めてのことにあたるときに、試行錯誤することなく、検索して一番上にくるものが正解と考えてしまいがちではないかということが心配になります。そうなってくると、工夫したりということをしなくなるのではないか。それこそゾゾスーツを開発したというのは、おそらくそうではなくて、コンピュータ以外のところの経験とか体験で

発想力を豊かにしてきた、あの社長だからこそ生まれた考えで、ずっとパソコンで検索だけをしてきた人ではそういう発想にはならなかったのではないかと考えると、やはり経験とか体験による学習というのは大変大事だと思います。理科の実験にしても、画像で見るとはではなく実際にする、絵を描くにしても、自分で鉛筆で書くのとタブレットで描くのでは全く違うと思うので、そこを同等に扱うというのは違うと思いますので、そこを授業の中での工夫というのか、今後の課題の一つになってくるのではないかと思います。

一方、良いところとしては、多様な子どもたちのニーズに合わせて、それぞれ家庭でも、学校に来なくても同じ学習を受けたりサポートしてもらえることができるようになるのではないかと。さきほど平田委員もおっしゃっていたのですけれど、今の社会は、会社に行かなくても、人と顔を合わせて喋らなくても仕事が成り立つようになってきて、ますますそうなることが、今まで対人でうまくいなくて社会で折り合いがつけなかった人にも職業選択の幅が広がるという意味だとしたら、もしかしたら、学校教育がその選択肢を増やす意味なのではないかという期待を持っています。

## ○市長

ありがとうございます。私見ですが、親として自分が子どもたちに望むこと、親としての教育目標というのは、私もいつどうなるかわかりませんので、子どもたちがいつ放り出されても自分で生きていく力を養うということだと、家庭での教育はそうあるべきだと思っています。そういう点で考えると、インターネットなどは自分で考える力を奪ってしまうような側面があるのではないかと思います。最近の子どもたちはキーボードも扱えないといいますし、名前も、スペルを教えてと聞くと、なんとかなんとか、スペース、なんとかなんとかと、苗字と名前の間にスペースと言う子どもがいるという話を聞いたこともあります。我々の感覚からするとちょっと考えられないようになってきていて、食事をする場所を決めるのも、インターネットで調べて、星がいくつあるからそこにしようとか、自分で考えなくなっています。インターネットの情報というのは非常に表面的なものが多いです。

この間非常に面白い経験をしたのですけれど、何十年かぶりに、ある喫茶店で、学生のとに通っていた喫茶店に行きましたら、2、30年くらい前の雑誌のバックナンバーが並べてあって、それをめくっていたら、私の大好きな作家の特集がありました。それを読むと、インターネットでは得られないような情報が書いてあるのです。例えばその作家はどこそこホテルの何号室を定宿にしていたとか、些末なことだけれど関心のある人にとっては非常に興味深い情報が載っていました。そういう情報の質の違いというか、インターネットには一般的に流通するような情報しかないわけで、なおかつ情報過多の世の中ですから、落書きのような情報と本当に価値のある情報が、すべて一緒になって

いて、それを峻別する能力を子どもたちは学ばなくてははいけませんし、誰かがそういう役目を世の中で負わないと、不満ばかりがどんどんマグマのようにたまっていて、例えば先週の新潮45の休刊事件のような、ややおかしなことになるのではないかと、どこかに不満がぶつかって偏った考え方がネット社会に渦巻いて、文句ばかり皆が言い合っているようなおかしな社会になるのではないかとこのことを思っています。

少し話がそれましたが、ネットもICTも大事ですけど、きちんとコミュニケーションが取れて、自己表現ができる子どもたちを育てるべきだろうと思っていますので、ネット、ICTなるものを過信してはいけませんし、ICTを使うにしても、十分な知見をそこに落とし込んでいくような取組を、市川市としてもしたいと思っています。AIをどのように活用するかということが行政の課題の一つなのですが、これから情報量不足で適切な判断ができないAIがどんどん出てくるだろうということが、既に指摘されていますので、教育にそういうものを活かすにしても、十分な知見を積んでいかないとはいけません。ご指摘を重々踏まえて、教育のICT化というものを考えていきたいと思っています。

教育長、総括をお願いします。

#### ○教育長

最初にご説明いただいた目標、「自分らしく輝く力を持った人間味あふれる人間の育成」の中身を読ませていただきますと、一つは知・徳・体の調和のとれた育成の視点、もう一つは家庭・学校・地域、そして行政の連携、協働体制の重要性、三つ目として自己肯定感の尊重が期待できるということで、私は良い目標ではないかと受け止めさせていただきました。そして、基本方針の1から3の記述全体を通して、この振興大綱が具体的に学校現場でしっかり取り入れられて具現化されていくということが大事だと受け止めています。

そういうことから、学校長の立場で考えてみますと、学校長が基本方針から具体的な子どもの姿を描くことができ、学校経営ビジョンを構築しやすいのではないかと感じました。これにより子ども像が明確になりますと、その育成に必要な教育内容がおのずと決まってくるので、そうすると学校にとっては、教育計画や教育課程の編成がしやすいであろうと考えました。また育てたい重点項目ということで、どのような指導を展開するかということになりますと、今度は授業になってくると思います。授業の中で、例えば今、話題になりましたICTの活用や外国語活動という、特色ある教育内容を、教科横断的に工夫していけるというようにも感じたところです。それから、働き方改革の視点も明記されていましたので、学校における業務改善、あるいは教職員の意識改革にもつながっていくのではないかと受け止めたところです。

具体的にお示ししますと、例えば基本方針1のところでは、私は特にアナログ面をし

っかり理解した上で、ICTの利活用を、教職員においても、児童生徒においても、取り組んでいくことが重要なのではないかと、まさに話題になっていた事柄そのものだと私も感じます。基本方針2のところでは、特別支援教育の視点を大事にするとともに、さきほど島田委員からもありましたけれども、体験活動を重視してほしいと思います。多くの事柄を体験から学び、自分らしさ、あるいは個性というものを伸ばしてほしい、そのように願っています。それから、個々人のニーズに対応できる教育というものも、この基本方針2のところできっちり推進していかなければならないと感じたところです。そして基本方針3の豊かな人間性を推進するにあたっては、道徳教育の推進ということがやはり大事で、そして道徳教育を通じながら、全教育活動の中で、例えば美しいものを美しいと感じる感性というのでしょうか、そういうものを、情操教育の面にも広げていけたらいいのではないかと考えています。そのためには、各学校で、道徳教育であったり情操教育にしっかり取り組んでいくということが何よりも大事だと感じたところです。

#### ○市長

ありがとうございました。体験から学ぶというご指摘ですが、教育を取り巻く大人が最大限、地域を含めて努力することだと思います。ICTとアナログの議論につながるころですけど、実際に生の手でいろいろなものに触れて、それを感じて、それを元に、将来世の中に出ていくときに向けたいろいろな準備をしていくというのは、やはり周囲が最大限配慮しなくてはいけないところだと思いますし、工夫をすることで、いろいろなことを経験させてあげられると思います。今、市川市で来年度の予算を組む中でも、教育現場で様々な工夫をしようということで、教育委員会で、教育長を筆頭に教育委員会の皆さまで議論しているところですので、すぐにこれは配慮をしていかななくてはならないと思っています。

道徳教育に関しては、今年度からスタートしたということで、保護者の皆さんも、非常に期待されている面と心配されている面があると思いますし、議会でも質問が出ています。スタートしたばかりということもあり、やはり注目して力を入れていかなければならないと思っています。情操教育に関しては、これもICTの話に戻ってしまうのですが、そういうものに頼ると、豊かな感情だったり感受性だったりというものが、なかなか涵養していくことが難しいと思います。やはり体験学習というものにたくさん取り組むことで、情操教育というものもできると思います。教育長のご指摘の点は全部、通底している、つながっていることだと承知をしておりますので、この点も、大綱を作ったうえで、実際の教育課程に落とし込んでいけるように、ご配慮いただければ大変ありがたいと思います。

今のご議論を踏まえまして、何か、さらにご意見ございますでしょうか。

### ○平田信江委員

道徳教育のことが出ましたので、お話ししたいと思います。研修会で文部科学省の方から道徳教育について伺った話の中で、子どもたちの自己肯定感を高めるために道徳教育を導入したと伺いました。一つの題材を元に道徳の授業を進めていく中で、子どもたちからいろいろな意見が出てくるけれど、基本的にはすべてを認める、とんでもない意見が出てくる可能性もあるけれど、とりあえず受け止める、否定をしない、子どもたちから出てきた意見を大事にするということが一番大事なのだという話を聞きました。それは大変素晴らしいと思うのですが、正直、やはり現場でやってくださる教職員の先生方が大変だと思いました。ICT教育にしても英語にしてもそうですけれど、現場で直接、子どもたちと関わる先生方のモチベーションを上げられるようなケアも何か考えていかないと、働き方もそうですけれど、時間を減らせばいいだけではなく、子どもたちに教えたいという気持ち、先生の思いを最大限活かせるようなことが必要ではないかと考えます。

### ○市長

ありがとうございました。これもあくまで私見なのですが、教員の皆さまのモチベーションということで申し上げますと、やはり、報酬というか手当というか、そういうところに尽きると思うのです。いい教育を実践したいと考えたときに、あるいは我が国においてこれからどうやって立っていくのかということ考えたときに、やはり教育を重視しないといけませんし、人材の育成というところを強化しなければいけません。それを考えると、やはり大学を出ていく若い人たちで最も優秀な人たちに教員になってもらうような世の中であるべきだと思っています。ただ、そのためのインセンティブがないところなのだろうと思います。ですから、これからなるべく市川市には優秀な教員の方々が集まってくるような努力をしたいと思っています。

すべての意見を尊重して、いったんそれを受け止めるというのは大変困難な作業だと思います。私も頻繁に議会で、自分らしく生きられる街を作りたいと申し上げているのですが、人が、市民が、単に自分らしくいようとするのを承認して尊重しようと思ったときに、ある種の価値相対主義というか、相手に対し、私の意見はあなたと違うけれど、あなたの意見も大事です、それはそれでいいのではないかということが前提になると思います。そういう自由な空間というものがないと、お互い認め合うという場は成り立ちませんから、世の中にはいろいろな人がいていろいろな考え方があるのだということを、先生方がまず前提として、考え方として持っていないといけませんし、子どもたちにそういうことを伝えていくというのは、多様な社会というものを作っていくうえで当然なことだと思います。そういう大変な、なおかつ重要な作業を教員の皆さん

に担っていただいているのだということを、やはりお伝えしていかなければならないと思います。

ご指摘の点は大変重要なことですし、特に、道徳教育を一年やってみて、ある種の検証をしないといけないと思いますので、今のお話は、教育長ともまたご相談のうえ、来年度、2年目に入るにあたって考えていきたいと思います。

#### ○島田委員

今のお話と関連があるのですが、個性とか自己肯定感を高めるということを考える際に、成果主義に走ってしまうと、なかなかそこは達成できないのではないかと思います。教員というよりも、保護者のほうが、数だとか偏差値に重きを置いてしまって、それによって、学校や教師に対する評価を求めがちなところがどうしてもあるのですけれど、さきほど市長がおっしゃったように、生きる力というものは、もちろん得点が高いということは将来選択肢が広がるというのは分かるのですけれど、それ以外の、生き方、生きる力をつける、一人一人のニーズに応じた教育を行うというところが、学校現場では非常に評価がしにくいところだと思えます。たぶんそのようにされている先生というのは学校の中ではわかっている、保護者や外から見たとき、はたして正当な評価を受けているのかというところがあって、それをどう正当に評価したらいいのか、個人的にも興味があるところで、どうしたらそこが測れるのか、点数以外のところを、どう測るのか。子どもに対して、この先生が好きか嫌いかと聞くのとはまた違うと思いますし、おそらくそういうものは10年度、20年後になってみないとわからないところもあるので、そういう数字で見えないところの、教師に対する評価、保護者に対する理解というものを求めるような方向も模索していただけるとありがたいと思います。

#### ○市長

大変重要なお話だと思います。どうやって子どもに点数をつけて、あるいは点数のつかない子どもたちがどうやって生きる力というものを身につけていくのか、より高い次元の教育課程に送り込んでいくのかということは、考えなければいけないテーマだと思います。ただ、こういうところにICTなどの力を使って、単なるテストの点数だけで測れない子どもたちの評価というものができるのではないかととも思います。大学入試のあり方も、例えば論文でアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）というものがありますし、いろいろなふうに変ってきていると思いますので、なるべくいろいろな子どもたちの個性を、単に学校にいる過程の中だけではなく、その子どもたちの生涯を通じて、どのようにして、まず自己肯定感を植えつけてあげて、将来の夢に向かって子どもの個性をそこに活かしていけるかということを、じっくり時間をかけてカウンセリングをして、そこに向けて背中を押していく、そこに向けた点数をつけるというようなことができれば、単にテストの点数が良い悪いで評価が定まるということではなくな

るような気がします。他方で、教育の均てん主義というものがあって、公教育というのはどこでも一定のレベルで何かをしなければならないという要請もありますので、そこをどうやってバランスを取っていくかという、ある種の究極の課題のように思えます。

ただテストの点数が悪いからおまえはだめだということではなく、いろいろな子どもがいて、いろいろな価値があって、生きていくうえで市川で受けた教育が大いに役に立つのだと、子どもたちだったり保護者の皆さんだったり、ありがたいと思ってもらえるような、喜んでもらえるような教育を目指すべきではないかと思います。とても重要なテーマだと思います。ありがとうございます。

教育長、いかがでしょうか。

### ○教育長

これからの教育というのは、一つはやはり、漏れ落ちなく、全体に子どもたちにしっかりと教育が行き届くような、いわゆるユニバーサルデザインの教育というのでしょうか、そういう授業展開を、終始、心掛けていかなければならないとつくづく感じたところ です。またさきほど、島田委員からありましたように、一人一人の子どもに、ユニバーサルデザインの授業を展開していく過程の中で、一人一人の子どものニーズに応じていくことは、必須のことであろうと思います。

そして、その評価というお話がありましたけれど、多様な評価というものを、教員が考えていかななくてはいけないと思うのです。多元的、多重的な評価を考えていかなければならない。そうすると、多面的にみるためには、教師の質そのものも上げていかなければならないだろう。それは、人材をもらうということも一つだし、市川に今いる教職員を、しっかりレベルアップしていくということもある。そういう質の向上は、研修なくしてあり得ないでしょう。その研修は外部研修もあるし、職場の中でのOJTもあるし、自己研修もあるだろうし、そういう中できめ細かに研修をして高めていくことが大事なのではないかと感じました。

また、教育というのは、どうしても教育ということで、教育委員会ということでの見方がされがちなのですが、さきほど市長のお話の中にもありましたように、やはりまちづくりの一環の中に、教育を取り込みながら、まちづくりと同時に進めていくということが大事なのではないかということを感じました。我々も今一度、教育委員会だけで考えるのではなく、市長部局ともキャッチボールを良くして、報告・連絡・相談をしながら、連携協働して、教育の充実にあたっていかなければならないということを改めて、お話から感じたところです。

### ○市長

ありがとうございます。では、大変多岐にわたりましたが、今のお話の点を踏まえて、

大綱案については、概ねお配りした案の方向になったと思いますけれど、調整が必要なところがあれば調整をさせていただいて、12月頃にもう一度会議を開催させていただいて、大綱の策定という流れでまとめていきたいと思っています。年末のご多忙の折、恐縮ですが、12月にもう一度会議を開催させていただいて、大綱案を決めていくという手続を踏みたいと思っています。よろしいでしょうか。

では、平成30年度第2回市川市総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。

————— 終了 —————